

第5章

発生要因と要因分析

①高齢者虐待の要因・背景の考え方

高齢者虐待の背景・要因



高齢者虐待を引き起こす背景・要因と考えられるもの

	項 目	例
養護者側の要因	虐待者の介護疲れ・介護ストレス	・過度な介護負担 ・排泄介助のストレス (ろう便・頻尿への対応等) ・介護やケアを要する人が世帯に複数存在する状態
	虐待者の障害・疾病	・就労困難・無職・収入不安定 ・経済的困窮、経済的依存
	被虐待者と虐待者の虐待発生までの人間関係	・長年継続している暴力 (暴力の世代間・家族間連鎖) ・力関係の変化・逆転 ・過去からの人間関係の悪さ・希薄・孤立
	虐待者の性格や人格（に基づく言動）	・性格的な偏り（こだわり） ・介護への一方的な思い込み
	虐待者の知識や情報の不足	・認知症に関して無理解・知識不足 ・老化や障害に対する無理解 ・介護知識・技術への助言への拒否や消極的態度 ・介護等に関する技術の不足

項 目	例
虐待者の精神状態が安定していない	・福祉利用等の手続きができない ・精神的依存
虐待者の飲酒の影響	・アルコール依存症
虐待者の介護力の低下や不足	・老老介護、認認介護、単身介護、障老介護等
虐待者の理解力の不足や低下	・金銭管理能力の課題 (浪費癖、使途不明の借金等) ・社会資源・サービス等について誤解・無理解
虐待者の孤立・補助介護者の不在等	・相談できる人がいない状態での介護 ・親族からの孤立
虐待者の外部サービス利用への抵抗感	・支援拒否（生活保護費の受給申請や拒否等）
虐待者のギャンブル依存	
虐待者に対する「介護は家族がすべき」といった周囲の声、世間体に対するストレスやプレッシャー	・近隣からの孤立 ・高齢者・養護者に対する指導的言動

	項 目	例
被虐待者の状況	被虐待者の認知症の症状	・ひとりで外出して戻れない ・興奮等 BPSD の状態が顕著
	被虐待者のその他の身体的自立度の低さ	・介護依存度の高さ (寝たきり、夜間たびたび介護が必要な状態等) ・医療依存度の高さ（経管栄養や処置等）
	被虐待者の精神障害（疑い含む）、高次脳機能障害、知的障害、認知機能の低下	・コミュニケーション機能の低下 ・判断能力の低下 ・金銭管理・財産管理能力等の低下
	被虐待者本人の性格や人格（に基づく言動）	・性格的な偏り（こだわり）
	被虐待者の置かれている社会的状況等により、外部サービスの利用等介護に問題を生じている	・孤立 ・経済的困窮（無年金等） ・高齢者自身が支援への拒否感がある ・セルフ・ネグレクト
	被虐待者への排泄介助の困難さ	・ろう便 ・異性介助等
	その他	・暴力への慣れ、あきらめ ・養護者に対する罪悪感

	項 目	例
家族の要因	経済的困窮（経済的問題）	・意図的な高齢者の財産・金銭の搾取や無断使用
	家庭内の経済的利害関係（財産、相続）	・関係の悪さ
	家庭における養護者の他家族（虐待者以外）との関係の悪さほか家族関係の問題	・世帯、家族間の折り合いの悪さ
	（虐待者以外の）配偶者や家族・親族の無関心、無理解、非協力	・主たる介護者以外の家族の認知症への無理解、介護に対する無関心

	項 目	例
その他	ケアサービスの不足・ミスマッチ等のマネジメントの問題	・世帯のライフスタイルに対する先入観 ・個別性を無視したニーズ設定 ・高齢者ではなく家族の意思・意向のみを重視したサービス提供 ・かかりつけ医の不在（不適切な多剤併用等を含む） ・高齢者虐待防止等に関する知識不足、虐待の容認、あきらめ等
	ケアマネジメントや制度関係の問題	・高齢者や養護者にいって理解しにくい説明（疾病やサービス内容等）
	その他	・住環境の課題（家屋の老朽化、狭すぎる住環境、人通りの少ない環境等）
		・近隣住民の認知症についての無理解・介護に対する無関心 ・近隣住民の高齢者虐待防止等に関する知識不足

（出典）東京都福祉保健局「東京都高齢者権利擁護推進事業高齢者虐待事例分析検討委員会報告書」（平成 25 年 3 月）p. 62～63）、厚生労働省老健局「市町村・都道府県における 高齢者虐待への対応と養護者支援についてマニュアル」（平成 30 年 3 月）p. 25、厚生労働省「『高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律』に基づく対応状況等に関する調査結果」p 25 を元に、高齢者権利擁護支援センターにて一部改変